

FREE 岡山ムーブアップ vol.9
JUL 2014

FRONT SPECIAL INTERVIEW 1

EXILE TETSUYA

ダンスで、
日本を元気に。

三代目J Soul Brothers from EXILE TRIBE

SPECIAL INTERVIEW 2 登坂 広臣

SPECIAL INTERVIEW 3 Lugz & Jera (ラグズアンドジェラ)

岡山から日本を元気にするフリーペーパー

OKAYAMA
MOVE
UP

HEADLINE
WEST
JAPAN
MOVE UP

TOKYO
HEADLINE
Free news
in
your
hands

発行人: 源 真典(株式会社HEADLINE WEST) / 一木 広治(株式会社ヘッドライン)
〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビルディング4F TEL:086-250-8089

編集・製作 株式会社ヘッドライン

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-9-6バルビゾン3 403号

日本を元気に!

EXILE TETSUYA

4月に行われたEXILE PERFORMER BATTLE AUDITIONで、新たに5人のメンバーが入り19人体制となったEXILE。自身も2代目J Soul Brothersを経て、2009年にEXILEに加入したTETSUYAが、第4章をスタートさせた新生EXILEについて語る。また、月刊EXILEの連載からスタートした「EXILEパフォーマンス研究所(E.P.I.)」の所長としての活動や今後の展望、オリンピックについての思いなども。さらに読者からのさまざまな質問にも回答。何事にも真っ直ぐに向き合うTETSUYAの素顔が見られる。

撮影・蔦野裕

絶対に負けないという気持ちであがき続けてここまで来た

一木（以下、一）「EXILEが4月から19人体制になりましたかいいかがですか」

TETSUYA（以下、T）「第4章のスタートということで、全く新しくなったなという感じがします。これまでのEXILEの良さは残しながら、それをいい意味でぶち壊して、新しいものを作る。そこに自分の役割のようなものがあるんじゃないかな。一番若い子とは10歳ぐらい違いますから、ギャップは感じます。TAIKIとかもう何が共通の話題なのか分からない（笑）。弟みたいな感じかなって思っていたら、それよりも下ですから、戸惑う時もあります。でも自分も2009年からEXILEに入ったので、その当時のことを思い出すと彼らの気持ちも理解できる。反対に、自分は先輩からこういうふうに思われていたんだとか、先輩はこういうふうに思ったらこうしてくれたんだとか、その先輩の気持ちも分かる。食事にもよく連れて行ってもらったし、飲みにも誘ってくれた。そういう役割は、今回は自分たちの役割だと思っています」

一「EXPGのインストラクター、2代目 J Soul Brothersを経てEXILEになったけど、その転機の時に自分を奮い立たせたものはなんだったんですか？」

T「あがきです。すごくまくいかないことだらけで、ちっとも順調な人生でもなく、もがいてもがいて、あがき続けてここまで来た。格闘技でいえばKO寸前まで追い詰められたことは何度もありましたが、ラストチャンスだと思って、思い切って手を出したらパンチが当たってしまったということが多かった。上京してからも、もうやめて、地元に戻ろう



と思ったこともある。でもその度に、“あと1回だけあがいてみよう。これで最後でもいいから、あと1回やってみよう。”とやってきた。EXPGのインストラクターや2代目 J Soul Brothersの時にも、もうダメだと思うことが何度もありましたが、絶対に負けないという気持ちだけは持ち続けていたような気がします」

一「夢の課外授業スペシャルなどでも、復興支援として東北に行かれたり、いろいろな活動をしたりしていますか？」

T「震災っていうもの僕の中ではすごく大きかった。自分の考えが変わった転機でもあったし、そこで掲げた“日本を元気に”っていう言葉がすごく自分を変えてくれました。ですから、2020年には日本はこんなに元気になりましたって叫べるぐらいのダンスをオリンピックの開会式で踊りたい。復興支援ソング“Rising Sun”の詞はATSUSHI君が書いたんですけど、“その光がここから、

どこまでも広がっていく”っていう詞が、自分の気持ちにすごくぴったりだったんです。夢の課外授業の国体でのフィナーレでは、そのところでブワーって鳥肌が立ちました。その国体では、HIROさんが、最初に人差し指を天に向けて上げていくという振りには“願い”や“祈り”を込めているって言ったんです。それについては、メンバーには特にインフォメーションはなかった。でもみんな必ずそう思ってたやっていたね。全員がそういう気持ちでやっていたのは分かっていたので、改めてHIROさんが言っていたのを聞いたときに、やっぱりそうですよねって、確認ができてちょっと安心しました。その国体で踊った時に、たくさんの人と、思いを同じにして一緒に踊ることの素晴らしさが実感として分かったんだと思います。その一つの形として、オリンピック・パラリンピックにつながったら最高ですね」

一木広治 (ICHIKI KOJI)

株式会社ヘッドライン代表取締役社長 / 二十一世紀倶楽部理事事務局長 / ライオンズ日本財団評議員 / 株式会社LDH エグゼクティブプロデューサー / 株式会社ローソン顧問 / 株式会社モブキャストエグゼクティブプロデューサー / アンファー株式会社顧問 / 東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会事業広報アドバイザー / 淑徳大学人文学科客員教授

構想2年、究極のダンスパフォーマンスシューズ完成！

— 『EXILE パフォーマンス研究所』の所長をやっているそうですが、この研究所を始めたきっかけは？」

T「最初のきっかけは、EXILEのライブです。初めてのライブのあと、もうヘトヘトで、死ぬほど疲れた（笑）。でも先輩たちは涼しい顔をしている。あんなに動いたのに、俺ってなんてしょぼいんだろうって（笑）。その時に、ちょうどトレーニングを始めた時期でもあったので、自分がEXILEの3時間のライブで、最後の1カウントまで100%の力で踊るためにはどうすればいいんだろうって思ったんです。そして、ダンスを科学的に、スポーツ学的に考えてみたいと思い、月刊EXILEという雑誌の企画からスタートして、今に至っております」

— 「具体的な活動としては？」

T「いっぱいありますけど、今年に関してはアディダスとコラボしてダンスパフォーマンスシューズを発売できたというのが一番大きな出来事ですね。EXILEはアディダスとアスリート契約をさせていただいているんですけど、ダンスパフォーマンスシューズというカテゴリーの商品はなかったんです。それで、アディダスの方に、作ってほしいと要望したら、

ドイツの本社までプレゼンに行きましょ（笑）。それで、その時に履いていた靴を持って、ドイツまで行きました。現地では、アディダスの方に通訳をしていただきながら2時間ぐらいプレゼンしました。今、こういうものを履いていて、EXILEのダンスとはこういうもので、だからこういう靴を求めていますというようなことを延々と（笑）。ものすごく真剣に話を聞いて下さり、事細かなことまでディスカッションもしてくださったのでありがたかったですね。その後、日本に帰ってからもデザインやサンプルのやり取り、細かな直しを含めた詰めの作業を何度もやって、ようやく完成しました。構想から発売まで2年。先月やっと全国発売されて今めちゃくちゃ嬉しいです（笑）。こんなに思いがこもった靴って、なかなかない！（笑）。メンバーやライブメンバー、E-girlsのメンバーにプレゼントしたんですけど、リハとかで履いてくれるんです。作っている時は、みんながリハやツアーで履いてくれて、喜んでくれることをイメージしながら作業していたので、その光景を見た時にイメージ通りで涙が出そうになった（笑）。初めて商品が手元に来た時は自分の子どものように愛おしく、大事にしたいなと思いました。デザインも性能もすごく魅力的で、軽さ、耐久性、通気性、つ

ま先の強さなど、僕の求めたものが全部入っている。今はこれがベストですが、一度作って終わりではなく、常に進化させていければいいなと思っています」

— 「これまでのお話でもいろいろな夢を語っていただきましたが、改めて今後実現したいことはありますか？」

T「先ほどもオリンピック・パラリンピックの話が少し出ましたが、オリンピックの開会式は世界中が注目するイベントなので、簡単にはできないと思いますが、その夢は持ち続けたいですね。もしやらせていただくとしたら、どんなものが日本らしいダンスなのか、どういう開会式が日本らしくて、その時期に見合うのかなど、日本の素晴らしさを世界にアピールできることを考えたいと思います。いろいろな方にお話を伺うと、1964年の東京オリンピックは、日本が発展途上というか、若い人が多い開会式だったようなんです。でも2020年は、1/3が高齢者です。高齢者が3割いる中で、1964年の東京オリンピックのような感覚では多分できない。二宮清純さんとお話した時にも、その話になり、二宮さんは“成熟”がテーマになるだろうとおっしゃっていて、なるほどと。誰しもが役割を持って、みんながひとつになれる開会式とかイベントをやるのが、これからの日本らしさだろうと言われたのを聞いて、いろんな人と一緒に踊れるのもそうですが、いろんな方に役割のある、いろんな方が参加できるイベントになればと思います」

— 「岡山ファンにメッセージを」

T「岡山にはまだ1回しか行ったことがないのですが、その公開ラジオの時に熱烈に歓迎していただき、岡山と岡山ファンが大好きになりました。食事も美味しかったので、もっと岡山の美味しいものを追求したい（笑）。だからラジオをレギュラーにさせていただいて、しょっちゅう行けるようになりたいです。それが実現したら、街角で見かけた時、気軽に声をかけて下さいね（笑）。でも本当に2回目、早く行きたいので、待っていてください」





EXILE TETSUYA'S POSITIVE ITEM

いつも前向きな TETSUYA の気持ちがあがる
ポジティブアイテムを紹介



DRINK

COFFEE

コーヒーが大好きで、コーヒー豆は非常にポジティブになります(笑)。飲むのは朝、昼、晩の1日3回。毎朝ポットに淹れて仕事場にも持っていきます。

GOODS

西川産業さんのマットレスと枕

もう手放せません。寝起きがすっきりするし、横になったら5秒で寝られる(笑)。

WORK

DANCE EARTH

USAさんが「ダンスは世界の共通言語」をテーマに企画しているプロジェクト。その思いに賛同して、いろいろ参加させていただいています。この前も「Changes」という舞台に出演しましたが、このプロジェクトもポジティブになりますね。

答えて！ TETSUYAさん

読者から寄せられた質問に TETSUYA が回答。質問が採用された人には、TETSUYA から名前入りでサインをプレゼント！

Q1. TETSUYA さんが考える JAPAN MOVE UP (日本を元気に) させる方法はどのようなことですか？ (松永彩花さん)

「祭りじゃないですかね。ライブもお祭りみたいなもの。みんなでひとつになろうっていう感覚を、より多くの人と持とうという気持ちが日本を元気にするんじゃないかなと思います」

Q2. TETSUYA さんに質問です！ 私はサッカーをしているのですが、最近体幹に気を使っているのですが、TETSUYA さんもやっておられる体幹トレーニングに

ついて教えて頂きたいです！ やる時間やオススメの体幹トレーニング等、なんでも教えてください。ラジオでも以前の放送でリズムトレーニングなど紹介しておられて TETSUYA さんからたくさんのお話を学ばせてもらっています！ (えりいさん)

「リズムトレーニングはいいと思います。体幹トレーニングはいろいろな種類がありますが、どれも地味なので、続けることを意識しましょう。僕は吉田トレーナーが紹介している体幹トレーニングをしているので、吉田トレーナーの本を読んで下さい(笑)」

Q3. 私は聴覚障害(難聴)を持っているのですが、手話の興味はありますか？ EXILE のファンである全国の聴覚障害者に伝えたい事ってありますか？ これからも応援しているので、頑張ってください。(YUKA さん)

「手話には興味があり、やってみたいと思っています。実は、聴覚障害の方に、音楽を伝えてみたいという夢があります。ダンスは音を聞いて踊るものだけど、逆にダンスを踊ることで音楽を感じられるような方法を考えたい。そして、音楽が聞こえてくるようなダンスと一緒に踊ってみたいですね。E.P.I. の課題がま

たひとつできました」



質問が採用された松永彩花さん、えりいさん、YUKA さんにサインを書く TETSUYA さん。3名の方おめでとうございます！



TETSUYA プロデュース

アディダス ダンスパフォーマンスシューズ「DP.01」

「パフォーマンスの質は靴によって全然が変わってきます。合わない靴、ダンスに適さない靴を履いたら、疲れきってしまう。2、3曲踊る分には問題なくても、2、3時間となると、ボディーブロウのように効いてくる。

ですから、今回は許される最大限までアディダスにワガママを言って作っていただきました。最高のダンスパフォーマンスシューズができたと思っています。ダンスをやっている方、ぜひトライしてみてください」

【カラー】4 カラー 黒、赤、白、黒×ピンク 【サイズ】22.5～31cm (黒×ピンクは27.5cmまで) 【価格】1万2960円(税込) 【販売店】アディダス直営店、adidas ONLINE SHOP (<http://shop.adidas.jp/24karats>)、全国のABC-MARTなど

日本を元気に!

三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE

登坂広臣

三代目 J Soul Brothers のボーカルとして活躍する登坂広臣が初めて演技に挑戦した映画『ホットロード』が公開される。熱狂的なファンを持つ漫画が原作の同作品で登坂は、NHK 朝の連続ドラマ『あまちゃん』で一躍トップ女優となった能年玲奈と共演。伝説の漫画原作の実写化、そして国民的女優の映画初主演作品ということで公開前から話題を集めている。初めての芝居に加え、世間が注目する作品の撮影を終え、今率直にその本音を語る。

撮影：神谷渚 ヘアメイク：白銀一太 (H.M.C inc) スタイリスト：ジャンボ

この作品へのチャレンジは表現者として大きな宝物になった

自分より自分を信じてくれた先輩や仲間が背中を押してくれた

それまで映画どころか演技もしたことがなかったという登坂。最初にこの『ホットロード』のオファーをもらった時には、出演に積極的ではなかったと言う。

「一番最初にお話を頂いた時は、自分がまったく思ってもいなかったオファーだったのでびっくりしました。正直、なんで自分なんだろうって…。その時期って、ちょうど三代目 J Soul Brothers として、もっともっと大きくならなきゃって思っていたし、日本のトップに立つグループに成長したいと思っていたので、出演をお断りしちゃったんです。自分はボーカルとしてフロントに立たせてもらってま

すし、そんな中で新たなチャレンジをすると、どちらも中途半端になる。そんなに自分の中に容量がないので、どっちも100%できなくなって、自分としてもグループとしても何か大事なものをおろそかにしちゃうんじゃないかという不安があったんです。だから今はグループの活動に専念すべき時だと判断しました。それはお話を持って来てくださった方たちが、本当に真剣に向き合ってたからこそ、こちらも真剣に考えないといけないと思って出した結論でした。それから半年ぐらい経って、また映画の関係者の方と原作者の紡木たく先生が足を運んでくだ

さったんです。その時に、僕と能年（玲奈）さんでなければ実写化はしないとまで言うてくださって…。最初にお話を頂いた時に、原作も何度も読ませていただき、自分もこの作品のファンになっていましたし、グループでの活動をしている中で、長い目で見たら、一表現者として、これにチャレンジすることは、自分にとって大きな糧になるんじゃないかという考えが変わってきました。自分の歌に絶対に返ってくるし、グループにとってもプラスにはたらいってくれるだろうと。また、周りの人に相談しても誰も反対する人がいなかったのも大きいです。HIRO さん、

ATSUSHI さん、TAKAHIRO さん…みなさんが背中を押してくれた。絶対に成長させてくれる大きなポイントになるし、何事にもチャレンジすることはいいことだと思うよって言ってきて。しかも、お前なら絶対できるよ。自分以上に周りが自分のことを信じてくれていたので、それがすごく勇気と力になりました。また、一度お断りしてしまったにも関わらず、真摯にお話を下さった紡木先生をはじめ。関係者の方の気持ちに応えたいというのも、出演を決めた大きな理由のひとつです。

自分を抜擢してくれた原作者と監督の気持ちに応えたかった

さまざまなプレッシャーがある中、登坂にしかできない春山（登坂の役名）を作り上げた。

「実は原作を読むまで『ホットロード』を知らなかったんですけど、周りの人に言うと“あの”ホットロード?!ってみなさんがおっしゃるので、この作品が世の中に与えた影響の大きさをひしひしと感じましたね。しかもその中でも春山は、愛されたキャラクターだと感じたし、紡木先生と監督が自分を指名してくれたという気持ちにしっかりと応えたいと身が引き締まりました。紡木先生になぜ僕だったのかはお聞きしていませんが、普段活動している自分を見て、『ホットロード』の春山を作り上げた先生が、どこか重なる部分を見つけて下さったんじゃないかと思います。実は撮影に入る前に監督がリハーサル期間を設けて下さり、演技のほかに春山をどうやって作り上げるかという話しをしていたんです。その時に紡木先生が“演じるとかセリフを言うとか考えなくていいよ”と。“登坂君のままそこにいることが春山になるから、そのままいて下さい”って言ってきて。それが一番難しく、

悩みましたけど、同時にそれが僕を選んでくれた理由なんだと思って、毎シーン、毎シーン演じていました。それ以外の準備はあまりしなかったですね。しいていえば、原作と脚本の中にすべての答えがあると思っていたので、それらをひたすら読み通したことで、尾崎豊の映像や音楽を聴いていました。この映画の主題歌が尾崎さんなんですけど、それだけではなく、春山ってなんか尾崎さんのイメージだった。監督もリハーサルの時に“春山って尾崎っぽいと思うんだよね”っておっしゃっていたので、やっぱりそうですよねって。だから歌を聴いたり、インタビューなどの昔の映像を何度も何度も見たりして、イメージを膨らませていました。また、右も左も分からない世界にチャレンジさせてもらうことに、たくさん不安や葛藤もありましたけど、共演者の皆さんやスタッフさん、この映画に関わっていただいたすべての関係者の方が、僕がやりやすい環境を作って下さり、そのおかげでやり遂げることができたと思っていますので、今は本当に感謝の気持ちでいっぱいですね」



メンバーのサポートなしに100%の力で挑めなかった

最初に予感したように、今回の映画出演で、表現者として幅が出てきたと言われるようになったとか。

「とにかく周りの人に助けていただいて、なんとかやり通すことができましたが、今回はずっと“登坂君らしく”って言われていたので、まったくの別人を演じたという感じはないんです。自分ならどうするんだろうって思いながらやっていたので、自分の中にまったく要素がない人ではない。ですから、正直演じる楽しさとかは分かってないのかもしれない。まったく別のキャラクターをやったらその楽しさが分かるのかも知れないと思う部分はあります。でもほかのキャストの方のスイッチの入れ方や、その役に入り込む姿を見て、リスペクトの気持ちを持つとともに、あらためてお芝居をする大変さも感じていました。能年さんもカメラが回っている時の存在感とかオーラがすごくて、さらにその力で僕のいろいろな面を引き出してくれた。そういう意味では能年さんには、引っ張っていただき、ほかの共演者の方とも僕を立ててくれていたんだと思います。初号の試写はずっと冷や汗をかきながら見ていました。素直に作品を楽しむという感覚にはなれず、トオル役の鈴木亮平君や、ほかの仲良くなったメンバーに隣に座ってもらった(笑)。だから自分の周りだけ人がくっ

ついてみんなに囲まれる感じで見ていました(笑)。メンバーにも見てほしいけど、絶対見てるメンバーも照れるし、見られる俺も照れるだろうな。照れあい合戦がすごいことになります(笑)。でも、メンバーのサポートなしでは、この作品に100%の力で挑めなかったのは確か。自分が撮影で抜けていた時、ほかのメンバーがグループのことをやってくれたので、全力で作品に入れた。そういった意味では、精一杯やった結果を見てほしいなと思いますね。感謝の意味も込めて(笑)。この作品の撮影は去年の11月、12月で、今年の1月からはツアーに入ったんですけど、スタッフさんやメンバーから変わったって言われて…。自分ではまったくそんな感じはないんですけど、歌っている姿や表現の仕方が大きくなったと言われました。それは多分、この作品のおかげだと思うし、自分の人生にとって、表現者としてもプラスになったと思います。僕はボーカリストとして、歌の技術は高いのはもちろん、その曲の主人公になって、聴いてくれる人たちにメッセージをきちんと届けるということを一番大切にしています。それはお芝居の世界でも通じるものがあると思いますので、今回演技を経験して感じたことが、ボーカリストとして自分が得た一番大きな宝物じゃないでしょうか。今は次のお話何もな

いですし、お芝居についてはまったく白紙で

ます。それまでは、僕らが目標とする日本を代表するグループになるべく、全員が一致団結して、精進していきたいと思っています。

岡山の人へメッセージ

「先日はたくさんの人に公開ラジオに集まっていただき、すごく幸せでした。そんなみなさんのうれしそうなお表情を見ると、次は僕らのライブパフォーマンスを生で見ていただきたいと思いました。今度はパフォーマンスで岡山に帰ってきますので、期待して待っていて下さい！」

答えて！登坂さん

読者から寄せられた質問に登坂が回答。質問が採用された人には、登坂から名前入りでサインをプレゼント！

Q1 登坂さんにとって「伝える」というのは(さっちゃんさん)

シンプルなこと。思っていることを真剣に相手に届けること。僕ら三代目J Soul Brothersは、“伝える”ってよく言いますが、それは今の僕らの思いをみなさんに届けるということ。そして曲を伝えるというのは、僕らが歌っている曲の世界観をみなさんに届けるということです。それが僕らの思う“伝える”ということなので、より多くの方に伝わるようにパフォーマンスさせていただいています

Q2 去年は岡山にきていただいてありがとうございます。初めての岡山はいかがでしたか？(チヒロさん)

最高でした。生まれて初めての岡山でしたが、みなさんがあんなに温かく迎え入れてくれると思っていなかったのが驚きました。食事も美味しかったし、単純にまた行きたいと思わせてくれる場所で

す。公開ラジオでも多くの方が集まってくれて、そんなみなさんの表情を見たら、僕らが行くのを本当に待っていてくれたんだなって分かったので、うれしかった。また絶対に行きます！

Q3 歌っている時に一番大切にしていることはなんですか(葵さん)

その曲の物語の主人公になって、その世界感を届けるということが一番大事にしています



質問が採用されたさっちゃんさん、チヒロさん、葵さんにサインを書く登坂。3名の方、おめでとうございます！



Be POSITIVE

Culture/Item/Entertainment and more

人に元気を与える人になるには、自分自身が元気でハッピーじゃなきゃ。ムかつくこと、悲しいこと、情けないこと、失敗すること、心が痛くなる出来事…。毎日毎日嫌なことはあるけど、ほんの少し見方を変えて見ることで、気持ちは前向きに立て直せるはず。そんな時、そと背中を押してくれるさまざまなモノ。友達、家族、ペットなど心許せるモノをはじめ、楽しい映画、ノリノリの音楽、感動的な本など、心に響くものを誰でもひとつ持っている。また、それだけ

ではなく、髪形を変えたり、旅行に行ったり、美味しいものを食べたり、やってみたかった習い事に挑戦したり、自分を変えてみることで、人生が楽しくなる方法もたくさんあるはず。そんなポジティブになれる最強のカルチャーやアイテムやエンターテインメントなどをご紹介。あなたの気持ちがハッピーになるようなモノに出会えますように。

地球上に、死角なし。“G-SHOCK”『GPW-1000』

俳優の浅野忠信が6月25日、東京都内の会場で行われた、東京 FM 系ラジオ番組「SHOCK THE RADIO」の公開収録にサプライズ登場。パーソナリティーをつとめるヒップホップグループ・RIP SLYME の RYO-Z と ILMARI とトークを楽しんだ。

この日は、世界初の GPS 電波受信機能と標準電波受信機能の2つの時刻取得システムを搭載したハイブリット G-SHOCK 「GPW-1000」の発表会。

同商品は「落としても壊れない腕時計を作りたい」という原点回帰の商品として開発。絶対強度と絶対精度の2つのタフ

ネスを徹底追求し、世界中あらゆる場所で正確な時刻を刻む。衝撃、遠心重力、振動に耐える“TRIPLE RESIST”に加え、引張耐久力の高い“カーボンファイバーインサートバンド”など、過酷な環境に耐え得るタフネス性能も充実。

腕時計にちなみ浅野は「海外では時間を常に意識している。滞在した国の人々が時間に厳しそうだなと思ったら、時間通りに現場に行くようにする」と海外での仕事場の様子を明かした。また、タフネスが売りの G-SHOCK 「GPW-1000」から、海外に行くとタフでいる秘訣について聞かれた浅野は「笑顔！ 容赦なく現地の



言葉で話してくる人に対しては笑うしかない。こっちも日本語でいく」と答え「一番強烈だったのは、モンゴル自治区。砂漠の街でバイクの2人連れに、どっかに連れてかれて、一緒に食事をしました」と驚きのエピソードを語った。

【発売日】7月26日(土)【メーカー希望小売価格】10万円(税別)【問い合わせ】カシオ計算機 お客様相談室 TEL: 03-5334-4869 (時計専用)



日本の人気 SF 小説をハリウッドで映画化『オール・ユー・ニード・イズ・キル』

2004年に発行された桜坂洋の SF 小説を、トム・クルーズを主演に迎えハリウッドで映画化した話題作。戦闘経験の無い主人公が、戦場で出会った女性兵士を救うため、同じ1日を無限に繰り返しながら強くなっていくという独創的なストーリーに、ハリウッドが惚れ込み、一流のキャスト&スタッフを揃えて実写化した。先日来日したトムも「本当に独創的で、間違いなく面白い映画になると思った」と、これ

まで演じたことの無い役どころに魅了され出演を快諾したという。監督は『ボーン・アイデンティティー』『Mr.& Mrs. スミス』を手掛けたダグ・ライマン。物語の鍵を握る英雄的な女性兵士役に『プラダを着た悪魔』のエミリー・ブラント。

物語の舞台は、宇宙から来た謎の侵略者と戦う近未来。トム演じる主人公・ケイジ少佐は、死ぬと1日前に戻って目が覚めるというタイムループを繰り返すことに。

ところが何度も同じ1日を繰り返すうちにスキルアップ。英雄的な女性兵士・リタと協力し、ギタイを全滅させるべく奮闘する。原作の魅力である独創性とテーマを生かしながらも、ハリウッドならではのストーリー展開やキャラクター、スケール感ある映像演出が見事にマッチ。特に、ケイジたちが着用する“起動スーツ”は、トム自身の意見も反映されたというこだわりのガジェットで、そのリアルさは必見。もちろん、これまで不屈のヒーローを幾度となく演じてきたトムが、弱くて小心者、しかも何度も死んでしまう役どころを演じているのも新鮮だ。



©2014 VILLAGE ROADSHOW FILMS(BMI)LIMITED

STORY: 謎の侵略者・ギタイの攻撃によって滅亡の危機にさらされている世界。ケイジ少佐は強制的に戦場に送られ、すぐに戦死してしまう。ところが気づくと出撃前日に戻っていた。監督:ダグ・ライマン 出演:トム・クルーズ、エミリー・ブラント他/1時間53分/ワーナー・ブラザーズ映画配給/TOHO シネマズ日本橋他にて公開中 <http://www.allyouneediskill.jp> 2D/3D

2020年に向けて“TEAM2020”始動！

第1回 JAPAN MOVE UP TOKYO MOVE UP オープンカレッジ×ベクトル大学 with CARITY

“日本を元気に！”を合言葉に全国各地でさまざまな企画を行う『JAPAN MOVE UP PROJECT』のオープンカレッジイベントが19日、東京都内で行われ、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致委員会の副理事長・専務理事を務めた水野正人氏と、1992年バルセロナオリンピック柔道男子78kg級金メダリストの吉田秀彦氏が登壇。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けてトークを行った。

水野氏は、昨年ブエノスアイレスで開かれた国際オリンピック委員会（IOC）総会での見事なプレゼンテーションで話題を呼んだ、東京招致の立役者の一人。トークでは、招致成功までの舞台裏や招致活動の具体的な内容など、知られざるエピソードを披露。また「大会を開いて終わりではなく、2020年以降も素晴らしい社会を目指さなければいけない。そのためにもオールジャパンで頑張りましょう」と熱く語った。

第2部では、水野・吉田両氏がさまざまなテーマに沿ってトーク。「2020年にはメダル獲得数世界3位に入りたい。お家芸の柔道にはぜひ頑張ってもらいたい」という水野氏に「自分が出られるなら出たいです（笑）」と吉田氏が笑顔を浮かべる一幕もあった。最後に2人は、2020年に向けたアクション宣言として「総力結集」（水野氏）、「育

成！」（吉田氏）と発表した。

公開収録で熱く語る2人

今回は、ラジオ番組「JAPAN MOVE UP」の公開収録も同時に開催（<http://www.jfn.co.jp/moveup/>）。

ゲストは引き続き水野正人氏と、吉田秀彦氏の両名。

水野氏が「2020年の東京オリンピックではメダル数で世界3位に入りたい。金メダルは30」と夢を語れば、吉田さんが「そのうちの1個は僕です」と合いの手を入れる。水野氏が「お家芸の柔道ではホントにたくさんメダルを取ってもらわなければいけないんで、よろしくお願いします」と言えば、吉田氏は「ミズノの胴着で頑張ってます」と切り返すなど絶妙なコンビネーションをみせていた。

こんな二人なのでトークは自然とスポーツからオリンピックの話へ。

「2020年の日本でのスポーツ界における選手、そして指導者の意識について」というテーマのトークになると、現在監督を務めている吉田氏が「ジュニアの強化はもう始まっている。いかに2020年でメダルを取るかということにはコーチ陣はすでに考えています」と頼もしい答え。

さて、選手でもある吉田氏は「出られるものなら出たいですね」とも。あながち冗談ではなかったりして!?



トークイベントでは、五輪招致の立役者の一人でもある水野正人氏が、招致活動の舞台裏などを振り返ったほか、金メダリスト・吉田秀彦氏が選手や指導者の育成の重要さなどを語った



ベクトル大学 with CARITY 代表・村川智博氏は岡山県を拠点に MOVE UP プロジェクトを展開中

EXILE TETSUYA “男を上げる” Monthly Column supported by ANGFA

DANCEの道

アラスカで感じた自分

2014年2月18日深夜0時、この時33歳の誕生日を迎えた僕は、アラスカという見知らぬ土地の山の中で野宿をしながら迎えていました。この何とも不思議な体験は、先日放送されたご存知の方もいらっしゃると思いますが、ある番組の企画で100時間サバイバルして生き残れるか？という過去最高に過酷な挑戦をしていた僕が、偶然にもその期間と33歳の誕生日がかぶっていたのです。実はこのお話を聞いたのは昨年とさかのぼりますが、なぜ僕が選ばれたのかはいまだに謎です（笑）。出発の日、羽田空港に到着した僕は、その日異常な大雪で足止めを食っていました。結局飛行機が飛ばずにスケジュールが一日ずれて次の日に飛んだのですが、今思えばそこからサバイバルが始まっていた（笑）。

アラスカのアンカレッジ空港に到着した僕はまずその寒さに洗礼を受けました、どこを見ても真っ白だし道路は凍っていて5分もいればどんどん体温を奪われて行きます。EXILEである以上体脂肪率は低いようと思っていた自分に初めて後悔しました（笑）。動物が冬眠する前にたくさん食べて体力を蓄える理由が、こんなスタート時から身にしました。まずサバイバルのレクチャーを受けるためにセスナに乗って、アメ

リカで最高峰のマッキンリー山に向かいました、そこでの景色や体感した寒さはこの先、生きていく中でたぶん二度と感じられないモノだと思います。岩山と真っ白な雪に太陽の暖かさを全く感じさせない強い風が僕を歓迎してくれました。鼻から息を吸えば鼻の中が凍ってくるし、顔に風を浴びれば表情筋が動かなくなってしまいます。あそこでは何をもってしても無力でした。

レクチャーは火の起こし方やシェルターの作り方、罌の仕掛け方、釣り道具の作り方など様々でしたが、中でも一番衝撃的だったのは放送はされていませんでしたが、鳥のさばき方を教えて頂いたことです。普段何気なく食べている物にも必ずその瞬間は訪れる訳で、命の大切さや感謝の気持ち、だからこそそれを頂いた自分には大きな責任があるのだと改めて感じる事が出来ました、日本には食べ物がたくさんあり、物に溢れていて本当に豊かだと思います。何をしてもなんとか生きては行けると思います。それは本当に有り難くて幸せな事ですが、アラスカのサバイバルでは生きるための根本的に大切な事を大自然から学ばせて頂いた気がします。結局この時期は食物がほとんどなくて100時間で魚一尾のみの食事となりました。あの味は一生忘れる事の出来ない何よりのごちそうでした。

そんな地球さんは僕にたくさんの厳しさを与えてくれたのですが、優しさも同時に見せてくれたのです。オーロラ!! 皆さん見た事ありますか？太陽の光が不思議な形で地球に降り注いで緑色のカーテンを僕の目の前にかけてくれました。ゆらゆらと大きくなった小さくったり夜空を彩っていました。この地方ではずっと見れていなかったらしく本当にラッキーな誕生日プレゼントを地球さんから頂いたな、と疲れきっていた僕はその自然の厳しさと優しさに涙が溢れてきました。この経験で見つけた自分は財産です。でもやはり周りにいてくれたスタッフさんやレクチャーしてくれた先生、楽しんで見てくださった視聴者の皆さん、そして応援してくれたEXILEメンバーに感謝です。完全に生命力を増した僕はまた思いっきり踊りますのでこれからもどうぞよろしくをお願いします。

神奈川県横須賀市出身。19歳からダンスを始め、横須賀、横浜、東京などのクラブイベントで活動。2004年8月、EXILE主演ミュージカル「HEART OF GOLD～STREET FUTURE OPERA BEAT POPS～」に出演。ダンススクール「EXPG」にてインストラクターをしながら、さまざまなアーティストのバックダンサーとして活動。2007年1月、新生J Soul Brothersのメンバーに抜擢され、2009年2月にデビュー。同3月1日からはEXILEのパフォーマーとして多方面で活躍。adidasと共同開発したダンスシューズを発表。絶賛発売中。



——この世界を目指したきっかけは？

「目立ちたいとか、女の子にもてたいとか、不純な動機です（笑）。高校時代って、ダンスとかファッションとかいろいろなことに敏感な世代で、そんな最新の文化を追っていく中でダンスがあり、高校3年までダンスをやっていたんですよ。高校のダンス部ができる前なんですけど、その高校のダンス部は世界大会に行くぐらい、今では有名ですが、僕らの世代がはしりでした。そんな時代にダンスを始めて、その時2カ月ぐらいだったんですけど見よう見まねでやっていて、文化祭ではダンスのリーダーをやったりして、注目されることとか目立つことが自分のなかで気持ちいいなっていう感覚になっていたんだと思います。大学で大阪に行って、大阪で知り合った仲間がすぐヒップホップのサークルを作って、クラブでDJ やっていたり、ラップをやっていたり、ダンスをやっていたりする仲間がワッと集まった。その時もダンスをやっていたので、大阪に行ったら、ダンスをガチで学びたいな。大学生活と両立してがんばりたいなって思っていたんですけど、自分が思ったよりダンサーの数がすごい多くて、その上ダンサーが思った以上にレベルが高かった。その時これをやっても自分はそのレベルまでたどり着けるかなということを考えてました。そんな中、周りから何かやろうよと言われたときに不意に出

『オカヤマメイド』を世界へ

たのが、歌だったんです。自分でもそのときは歌をやりたいっていう意識はほとんどなかったんですけど、なぜか歌をやろうという発想が出てきて。高校の時にダンスをやる前に一瞬バンド活動をした程度だったんですけど、そのチョイスが今となつては、続けられたので良かったと思います。その当時はただ単純に、歌をやっている人はいなかったっていう理由だけでしたし、やれば目立つんじゃないかという不純な動機でした（笑）」

——3枚目となるミニアルバムへの想い

「去年の7月に2枚目をリリースして、今回のアルバムをリリースするまでに1年ぐらい時間がかかりました。作品としてシリーズ化したいという気持ちで、毎回自分のアーティスト名をすべて大文字にしています。全6曲で構成されているミニアルバムは、過去2作はいろいろなプロデューサーさんと一緒にコラボした曲が何曲かあったんですが、今回の作品は僕のセルフプロデュースです。全部自分で作詞作曲をやったアルバムですね。各作ふまえて、一番自然体というかりラックスして、素直にリアルタイムの今の自分を表現できた作品じゃないかと思っています。歌詞とか曲の中だけで判断できない奥深さが曲の中にフレーバーとして詰まっている。1曲目の「MUSIC TRIBE」は、ほんと今っぽい曲であるんですけど、僕が岡

岡山から日本を元気に!!

Lugz & Jera

唯一無二のスイートヴォイスと天性のメロディーセンスで魅了する
岡山出身の男性シンガーソングライター

山に帰ってから、全国に発信しようっていうテーマで作ったイベント団体があつて、その団体の名前が“MUSIC TRIBE”です。そのテーマソングじゃないんですけど、そういう形で作っていて、描く世界は岡山なんですけど、岡山を宇宙に置き換えて、その宇宙に無重力の状態をイメージした。無重力の状態って、自分が動きたくても動けない。でも自分が思ったり願ったりするところに、人は導かれていくんだよっていうメッセージを込めていて、その無重力の状態で、音でつながっていくと、ひとつのワンダーランドができる。そのワンダーランドにみんなが向かっていくよって。音楽でつながる仲間=MUSIC TRIBEにつながるんですけど、そういうメッセージを織り込んでいって、一聴しただけでは分からないメッセージというのを何回も聞いたらまるといふか、この歌詞って実はこういう意味だったんだって、なにかのアクションの時にひもとけるような…。最終的に今年の9月20日に開催する“MUSIC TRIBE”で、みんながライブを見

岡山中を巻き込みたい

てくれて“ワッ!”でなってくれたらいいなというメッセージを込めてたりもしますね。2曲目の「Happy Song」もPVが、ザ・メイドイン岡山じゃないですけど、岡山駅が舞台だったり、問屋町の周りが舞台だったり、みんなが行ったことある、知ってるってところをメインに、ロケをしました。地元のキッズのダンサーとか、僕のふるさと高梁市とか、県北のほうのダンスチームの子どもたちを150人ぐらい集めて作ったPVで、その中でもいろんな僕らの団体に関わっているアーティストだったり、これから出て行くアーティストだったりをいっぱい盛り込んでいる。もしかしたら2年、3年経った時に、超有名になっちゃって、あんとき出てたやつじゃんっていう仕掛けができたらいいなって。いろんな自分に関わった人たちを巻き込んでいます。そんなふうにして全部言うと、全部に意味があつたりするんですけど」

——今後の目標は？

「岡山に戻ってきて活動を始めた一番の理由は、やっぱり自分が音楽を続けるために、自分が活動できるベースを自分の仲間たちと作っていきたくてというのがきっかけです。そこから自分の活動のベースも徐々にできつつあって、自分たちの後輩だったり、仲間のアーティストだったりとか、まさに今増えてきていて、いい感じに回りだしてるんじゃないかなと思っています。その中で僕はイベントレーベルから始めたひとつのテーマで、岡山で一大フェスを作りたいというテーマを掲げられました。それが今年も開催する“MUSIC TRIBE2014”ですけど、まずは岡

山に一大フェスを作って、岡山の方はもちろん、岡山に県外から人が集まる状況を作りたいと思っています。その認知ももちろんそうですし、“MUSIC TRIBE”っていう母体を作るのに、何をしなきゃいけないかって考えたときに、岡山県って大きくて、岡山市、倉敷市だけじゃなくて、県北のほうにもいっぱい市があるので、そういう人たちも巻き込みたいなって。岡山っていうキーワードがあって、そこから巻き込みたいと思ったのが結構強くて、“MUSIC TRIBE”みたいに岡山の中央でやっているものだけじゃなくて、もっと地域に密着した形のイベントを作って、その地域で今から頑張ろうとしているダ

ンサーだったり、音楽やってる合唱団だったり、そういう子たちも一緒にコラボレーションしながら、みんなで盛り上げようじゃないかっていうのが、キーワードでやらせてもらっています。しかし僕自身はここで僕たちだけのベースを作りたいっていうわけじゃなくて、もっとオープンにしたい。なので今からそういう歌を始めたいんです。でも岡山に活躍の場所がなくてとか、ちょっと東京に音楽をやりに行こうと思ってるんですけどっていう子たちが、東京に行く前に、岡山で活動すればいいじゃないっていう環境をどどんブラットフォームとして、みんなそこに入ってくればいいじゃないっていうのが一番にありま

す。その中でそれぞれの同世代のアーティスト同士だったり、アーティストじゃなくて、カラオケでうまいって言われてる街のお兄ちゃんだったり、お姉ちゃんだったり、この子より私のほうがうまいじゃんみたいなのから、はじめてみようって思えば楽しい。そしたらほんとに意外と上手くて、人気が出ちゃってって、全然今の時代はあるパターンだと思うし、そういうふうどこにいてもやりたいと思ったきっかけがすべてなので、そう思ってもらえたら何ができるのかって考えて、自分たちが作っていきながらもそれを提供していけたらいいなと思っています。

Information

iTunes R & B / SOUL チャート第1位 3rd Mini Album 『LUGZ & JERA. III』リリース！

iTunes、Amazon等でトップチャートを獲得するなど、話題沸騰中の大人気シリーズ『LUGZ & JERA』から早くも3作目となるMini Albumがリリース。

さらに進化を遂げた唯一無二のスイートボイスと天性のメロディーセンスで織りなす珠玉の楽曲たちは世代を超えた全音楽リスナー必聴の1枚だ！



『LUGZ & JERA. III』Track List

1. MUSIC TRIBE // 2. Happy Song // 3. Always Love You // 4. Painful Rain // 5. For U // 6. Next To You

『MUSIC TRIBE』…岡山シティエフエム 毎月第2・第4金曜日夜 23:30 ~ 00:00 放送
「MUSIC TRIBE RADIO」オープニングソング

『Happy Song』…イトーヨーカドー岡山専門店街 CM タイアップソング

岡山県下最大級屋内音楽フェス 『MUSIC TRIBE 2014』9月20日開催！

2011年よりスタートした岡山から全国へ向け発信する音楽フェス“MUSIC TRIBE”。「SUGAR SHACK (シュガーシャック)」の岡山公演を皮切りに2012、2013と様々なアーティストを招聘し、その公演全てがSOLD OUT。県下最大級の屋内音楽フェスとして浸透を続け2014年、再び、あの伝説が甦る。



■開催日時：2014年9月20日(土) 開場 16:00/ 開演 17:00

■開催場所：オレンジホール (〒700-0026 岡山県岡山市北区問屋町15-101 / JR山陽本線・伯備線 北長瀬駅より徒歩15分) ■出演 (AtoZ) CIMBA / CLIFF EDGE / Full Of Harmony / JASMINE / JAY'ED / LEO / Lugz&Jera / MAY'S / MIHIRO ~マイロ~ / WHITE JAM 佐藤広大 / 宏実 Opening Act : naom'ey / DJ charmie / RYO-HEY
詳しくは【<http://www.musictribe-okayama.com/>】から



【野球講師】
工藤 公康
KIMIYASU KUDO
元プロ野球選手
現在野球解説者

汗をかき、本気で学んだ、100人の“夢”の1日。

5月31日(土)、OKAYAMA MOVE UP実行委員会が主催する「夢の课外授業×KANKO DREAM PROJECT」が岡山市升田にある六番川水の公園体育館で開催された。今回は、野球とサッカーの2種目で実施され、スペシャル講師として、元プロ野球選手で現在、野球解説者として活動している、工藤公康さん。元プロサッカー選手で現在はスポーツキャスターとして活躍している、水内猛さんの2名を迎えての開催となった。参加人数は両種目を合わせ、約100人。当日は、5月とは思えないほど暑く、気温も30度を超える厳しい状況だったが、両グラウンドからは、笑顔と楽しい笑い声が聞こえる。元プロ選手ならではの、鋭いアドバイスに加え、ユニークなゲーム性のある練習法に

子どもたちの眼差しも真剣そのもの。マンツーマンの指導も行われた。授業終了後は元プロ選手にむけての質疑応答も行われ、子どもたちにとってまさに夢のような授業内容の1日となったのではないのでしょうか。

当日の授業を終えた2人からは、「一人一人に教える時間は短かったんですが、やってみてと言ったことを皆が元気ハツラツにやってくれて良かったです。また、自分は少しでも子どもたちの将来の何かきっかけになったり、もっと野球がうまくなりたいと思えるきっかけになればという想いで授業を行っていたので、少しでも子どもたちにこの想いを伝えられていれればいいです」と工藤氏。水内氏からは「暑い中でもみんな向上心を持って目を輝かせながら授業に挑



KANKO DREAM PROJECT®

夢のチカラ。

【サッカー講師】

水内 猛

TAKESHI MIZUUCHI

元プロサッカー選手
現在解説者/タレント

んでくれて、すごうれしかったし、楽しかった。また、本当に素直な子どもたちばかりで、その素直さが成長につながるのではないかと感じました。岡山には男女ともにプロサッカーチームがあるので、男の子も女の子も、まずはそこを目指してほしいです」と、夢を持つ子どもたちへの一日の授業を振り返った。

次世代を担う子どもたち。ここから将来日本を牽引する岡山出身のアスリートが生まれることにも期待が高まる。



夢の課外授業とは

大きな時代の転換点の中、本来社会の財産である子どもたちを取り巻く環境の悪化に危機感を感じ、2000年度より二十一世紀倶楽部がスタートさせたプロジェクト。子どもたちに「夢」を持ってもらい、挑戦する気持ちを持ってもらう。それが「夢の課外授業」が目指すものです。“教育-education-”の語源は「引き出す」こと。子どもたち一人ひとりの内面にある可能性、力を引き出してあげること、そして各界の“本物”に触れ合うことで、努力すること、チャレンジすることの感動、そして目標を実現することの感動を知ってもらうため、各ジャンルの成功者たちが、それぞれのスタイルで実際に授業を行っています。





街の巨匠 Vol. 2

from okayama ★★

グリル 森

Grill Mori

Chef 森 繁 もりしげる

料理の世界を目指すようになったキッカケ

両親が自営業をしていて自炊をする機会も多く、昔から家で調理をすることは好きでした。正直この道を進もうとすぐ思っていたわけではありませんが、料理をすることはもともと嫌いではなかったため、入学した高校に調理科があったのがきっかけで本格的に料理を始めました。

今の仕事にやりがいを感じる時

この業界へ入り、現役24年やらせていただいておりますが、やっぱりお客様の『美味しかったよ』という声や、笑顔で料理を食べてくれる瞬間が一番やりがいを感じます。

料理へのこだわり

私のお店の一番の売りは、デミグラスソースです。お店のオープン当初から、減った分だけ新しいものを重ねるように作っています。ハンバーグに使ったり色々な料理に使うので一番の宝物というところが大きくなりますが(笑)。一番大事なものです。

常に心がけていること

表情や動作を見て料理を出すタイミングを考えています。料理だけではなく、店舗をかまさせていただきます中でお客様の立場でいつも考えられるかが一番大事だと思いますので、料理が一番美味しい時にお客様に食べていただけるよう、日々考えています。

最も尊敬している人はいますか？

料理人をしているところに福岡でお会いした方ですね。怖かったのがありますし、今と違い殴られたりもしたのですが(笑)。自分が少しでも不安を感じる料理はお客様に提供してはいけないということは、よく言われました。作り直しなんて当たり前でしたね(笑)。料理の細かいことよりも、色んなことに対する心構えであったり向かっていく気持ちというものを学ばせていただきました。今でもその気持ちは忘れていないですし、その方を一番尊敬しています。

今後若い世代の方になにを伝えていきたいですか？

今は昔と違い色々なことに対して拒否ができると思います。鍋だけ洗えとか、ジャガイモの皮だけ剥いとけとか、そういったことではないと思います。どちらかという即戦力でどんどん教えられたくさん学べる環境があると思うのですが、教えてもらえることのありがたみをちゃんと分からないと身につかないと思いますので、“楽しんで習わない”ということを伝えていきたいですね。

今後の夢や目標はありますか？

お店を移転する前までは別の場所で6年させていただいたのですが、現在の広さより狭くお客様の不便という声を聞き現在の場所で広さも拡大させオープンしました。今後の目標は、まずこの場所でも6年続けるということですね。



食事は楽しいものであって欲しい。



>>編集部 追記

岡山市柳川筋にある“グリル森さん”。とても親しみやすい雰囲気シェフとお店です。オススメ料理はやはり、シェフのこだわりデミグラスソースを使った“ハンバーグ”。ハンバーグの上にトマトが丸ごとのつけられていて中にチーズがトロリ。女性には、たまらない一品になっています。どの料理を頼んでも、ふんだんに野菜が使われていて色合いや健康にも気を使っている料理ばかりです！ドリンクもアルコールからソフトドリンクまで種類が豊富で、お酒が飲めない方、お酒が大好きな方にもオススメなお店となっています。お一人様でも、カップルでもお友達とも楽しめる、落ち着く、そんな空間です。



Grill mori グリル モリ
 住所:岡山市北区蕃山町1-3 インターシティビル1F
 電話番号:086-224-4915
 店休:日曜
 パーキング:なし/お一人様単価:約3000円~
 営業時間:17:30~11:30 (ラストオーダー:10:30)

青木ファミリー Answer：おじいちゃんから子どもたちまで会話が弾む家!!



のあちゃん Answer：ワクワクする家です!



新農ファミリー Answer：明るく、笑いがたえない家です!



航太くん Answer：広い!



岩倉ファミリー Answer：皆が遊びに来たくなる家!



新企画!!

ムーヴアップ ドリーム MOVE UP DREAM

from okayama FAMILY Vol. 1



Q. 岡山の街のご家族に聞きました!! 理想のマイホームとは? 🏠

『笑顔』+『夢』=未来。
これが私たちの『幸せ』のカタチです。



大倉ファミリー Answer：笑顔の絶えないお家!



引田ファミリー Answer：笑顔の絶えない家!



藤原ファミリー Answer：広くて便利!



山田ファミリー Answer：子どもが、毎日笑っている家!



ひかる・つばさちゃん Answer：和室!



フジファミリー Answer：木の力がすごい!!



長門ファミリー Answer：そうじがしやすい家

ご協力して下さったご家族のみなさん、ありがとうございました!

54 JAPAN MOVE UP WEST





 愛のやりと運転を。

Love Driver Teacher

株式会社 バルコム
 BMW 正規ディーラー Balcom BMW岡山
 所長 栗本 玲嗣

MOVE UP DRIVING

「飲酒運転」「無免許運転」ゼロを目指し、「命の大切さ」というものを強く心に刻み、岡山をより良い街へ、「誰かのために今、なにをするか考え、そしてみんなが「愛のある運転者。」という想いをこめたプロジェクトです。

LD - Love Driver -



『交通事故防止』『飲酒運転』『無免許運転』ゼロを目指し、自分たちが率先して行いたいという気持ちからまずは、『社内事故』を起こさないようにしようと決めました。そのために、なにか日々できることはないかと社員と考え、昨年末から毎朝、独自に朝礼を行っています。もちろん私たちは、車業界に従事していますので『交通事故』や『飲酒運転』は絶対あってはならない事ですし、『無免許運転』なんて、もつてのほかですよね(笑)。

自分たち個々の意識が高くないと、たくさんの方に発信し、思いをつないでいくことは不可能だと思います。私たち、車業界に携る者が模範となって動き、発信していくという強い信念を持ち、日々業務を行っております。弊社のお客様は、『交通事故防止』や『飲酒運転』に対し意識が高い方ばかりです。お客様の会社でも『交通事故防止』や『飲酒運転防止』に向けて、社内朝礼や実際イベントを開催されており、私たちも日々勉強させていただいています。

誰しも、運転をしていたら一度は自分が1番と思ってしまうのではないかと思います。けれど、車は一步間違えれば凶器になります。次世代を担う子どもたちを守るために、大人であり社会人である私たちがきちんと自覚をもち、思いやりのある運転を日々心がけるという事が1番大切なのではないかなと思います。全てにおいて思いやりを持っていれば、それが『愛のある運転』につながっていくのだと私たちは思います。たくさんの方に『愛のある運転』をしていただきたいです。

岡山は車で移動される方が多いと思います。安全で正しいドライビングマナー、ドライブすることの楽しさをお伝えすることで、たくさんの方に色んなところへ行っていただき、経済効果が上がることが『岡山を元気に!』へつながっていくのではないかなと考えています。

株式会社 バルコムは、OKAYAMA MOVE UPを応援しています。

Balcom

1967



Balcom BMW 岡山
 住所: 〒700-0973 岡山県岡山市北区下中野411-1
 電話番号: 086-243-1200 (新車ショールーム)
 086-243-1237 (サービス予約専用)
 営業時間: 10:00~19:00 (新車ショールーム・サービス)



岡山から日本を元気に!!

OKAYAMA

MOVE

UP

かけがえのない
未来に夢を。

OKAYAMA MOVE UP とは——

JAPAN MOVE UP 「日本を元気に!」というテーマのもと、
「東京から日本を元気に!」と活動を行うTOKYO MOVE UPと連携し、
2013年4月から「岡山から日本を元気に!」をスローガンに掲げ、
岡山の「人・街・未来」を「社会的活動」と「エンタテインメント」
で元気にするべく活動をスタートしたプロジェクト。
今後もこれまでになかった様々な展開を
「社会的活動」と「エンタテインメント」を融合し、
岡山から日本を元気にしていきます!

OKAYAMA MOVE UP 実行委員会

PHOTO 夢の課外授業スペシャル (野球指導 工藤公康)



活動事例: 夢の課外授業スペシャル (野球指導 工藤公康 & サッカー指導 水内 猛)

JAPAN MOVE UP ラジオ公開収録 (EXILE MATSU・三代目JSB 登坂&ELLY・EXILE TETSUYA)

※写真左から

OKAYAMA MOVE UP実行委員会 加盟企業一覧

(2014年7月11日現在)



総合建設業・一級建築士事務所
河野建設株式会社



special partner



OKAYAMA MOVE UP 賛同企業加盟・その他お問い合わせは下記まで
詳しくはOKAYAMA MOVE UP実行委員会運営事務局 (株式会社HEADLINE WEST/TEL:086-250-8089)

FREE 岡山ムーブアップ
vol.9
JUL 2014

SPECIAL INTERVIEW 2

三代目J Soul Brothers from EXILE TRIBE 登坂 広臣

青の魂で、 日本を元気に。

FRONT SPECIAL INTERVIEW 1

EXILE TETSUYA

SPECIAL INTERVIEW 3 Lugz & Jera (ラグズ・アンド・ジェラ)

岡山から日本を元気にするフリーペーパー

OKAYAMA
MOVE
UP

HEADLINE TOKYO
MOVE UP HEADLINE

発行人：源 真典(株式会社HEADLINE WEST) / 一木 広治(株式会社ヘッドライン)
〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビルディング4F TEL:086-250-8089
編集・製作 株式会社ヘッドライン
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-9-6バルビゾン3 403号